

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

松江第五中学校

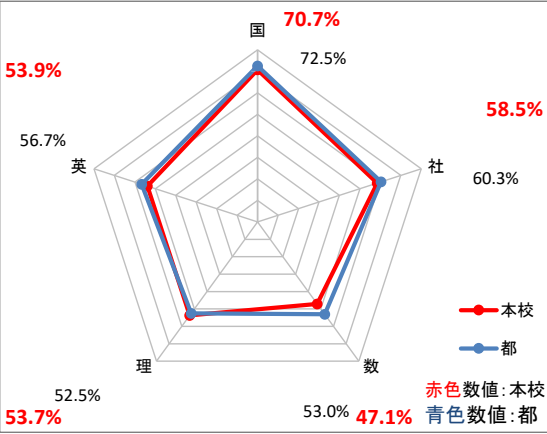
国語	教科の観点						読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	92.5%	68.1%	78.0%	70.5%	70.1%	73.2%	85.8%	64.2%	62.4%	69.2%	72.5%
本校	89.3%	64.3%	77.7%	88.7%	70.1%	71.9%	83.8%	61.4%	51.3%	64.4%	70.7%
都との差	-3.2	-3.8	-0.3	18.2	0.0	-1.3	-2.0	-2.8	-11.1	-4.8	-1.8

社会	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	94.4%	59.9%	57.6%	62.0%	62.9%	62.9%	42.9%	46.8%	50.9%	60.3%
本校	93.5%	52.2%	58.4%	60.9%	61.0%	61.0%	41.6%	45.8%	49.5%	58.5%
都との差	-0.9	-7.7	0.8	-1.1	-1.9	-1.9	-1.3	-1.0	-1.4	-1.8

数学	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	77.6%	41.6%	53.9%	58.8%	55.6%	49.6%	49.3%	35.4%	45.4%	53.0%
本校	74.7%	34.0%	48.0%	55.1%	50.2%	46.1%	42.5%	19.8%	37.6%	47.1%
都との差	-2.9	-7.6	-5.9	-3.7	-5.4	-3.5	-6.8	-15.6	-7.8	-5.9

理科	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	86.7%	45.7%	61.4%	46.8%	53.4%	78.7%	49.8%	19.5%	49.4%	52.5%
本校	88.6%	44.0%	65.9%	46.7%	54.1%	83.1%	50.6%	24.0%	52.6%	53.7%
都との差	1.9	-1.7	4.5	-0.1	0.7	4.4	0.8	4.5	3.2	1.2

英語	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	82.6%	31.7%	69.5%	59.3%	60.2%	45.2%	52.9%	37.4%	45.2%	56.7%
本校	86.4%	28.9%	64.9%	56.6%	57.3%	41.6%	52.3%	33.4%	42.4%	53.9%
都との差	3.8	-2.8	-4.6	-2.7	-2.9	-3.6	-0.6	-4.0	-2.8	-2.8



《都との比較にみる本校の状況》

国語：A教科の内容「話す・聞く」が3.8ポイント低く、表現力不足が否めない。また、B読み解く力に関する内容では、「取り出す力」が2.0ポイント、「読み取る力」が2.8ポイント低くなっており文章をしっかりと読めていない部分がある。「解決する力」に至っては、11.1ポイントも低。これにおいても文章を正確に読む力がついていないためではないかと思われる。また、わからないと諦めてしまう傾向にある。

社会：「教科の内容」が1.9ポイント、「読み解く力」に関する内容が1.4ポイント、どちらも低いことから、本校生徒の社会科に対する学力は若干低いことがわかる。特に「教科の内容」項目の「思考・判断・表現」は7.7ポイントと最も低く、考える力の育成が不十分といえる。社会科の授業だけではないが、全体的に行動が幼い生徒が少なからずおり、課題に根気よく取り組み考えて判断することが苦手な生徒が多い。

数学：A、B全ての項目で都平均よりも低い結果となっている。D層、C層の生徒がA層、B層に比べて多いので基本的な内容の学習を習熟していない生徒が多いと分析できる。

理科：A教科の内容「思考・判断・表現」は1.7ポイント低く、「知識・理解」は0.1ポイント低い。また、B読み解く力に関する内容「読み取る力」は+0.8ポイントの差しかないことから以下のことが要因と考える。

①図や表、グラフなどのデータを関連付けて考えることができない。また、データを読み解く力がない。②数的考え方や単位の意味を理解していないため、正しく回答することができない。③目で見ることのできない変化について理解できていない。④実験結果から事物事象を推測して、考察する力が身に付いていない。

《授業改善のポイント》

国語：①正確に文章を読みとる力を付けさせるために、短文を多く読ませ、少しずつ長文にも慣れさせていく。②短文を書かせる指導を増やす。③問題を出しわからないとすぐ回答を求める生徒が多いので、考えさせる時間を多く設ける。

社会：ワークやノートなどの課題提出を定期考査時だけでなく、単元ごとや週に一度など密に行うことで家庭学習に継続して取り組む姿勢を養う。また、課題に自主的に取り組むことが苦手な生徒のために、放課後補習などを定期的に設け、根気よく課題に取り組ませる。

数学：①授業中学習した内容を定着させるために、定期的に課題を提出させる。②家庭学習の機会を増加させるために、MMM検定や小テストなどを用いて家庭学習の時間増加を図る。③数学を質問できる質問教室を定期的に開く。④授業の中で「学び合い」を取り入れ、1日1回の授業の内容の理解が深められるようにする。

理科：①数値計算の練習問題を解く機会を増やす。また、少数、分数百分率などに関する問題や基礎学力が定着できるような問題を家庭学習で行う。②実験結果からわかることを整理分析する力を付けるために、実験後の授業で細かく丁寧に指導する。グループ学習で結果の整理と分析を行う授業を展開する。③物理や化学、生物、地学など単元ごとの学習で終わりでなく、それそれに関連付けて考えられるように、それぞれの素手内容を絡めた応用問題を解く機会を作る。④机上のテストだけでなく、実験テスト(パフォーマンステスト)などを行い基礎的な力を身に付けられるようにする。

英語：①帯活動で長文に取り組む時間を増やす。②長文を読む際には代名詞に気を付けて読ませる指導を工夫する。③毎日の宿題になっている自学ノートは継続して行う。④評価項目を細かく分けた小テストを定期的に入れる。

《家庭・地域への働きかけ》

授業だけの学習では理解度を高めることが難しく各教科で質問教室を設けたり学び合いの時間を設定したり、小テストを実施している。各教科の学習内容の定着を高めるためには家庭での復習が必要であり、各教科で自学ノートやワークやノートの提出を促している。

1時間以上の家庭学習習慣が付いている生徒も24%いるが、まったくやらない生徒は21.4%で約1/5の生徒が家庭で机に向かう習慣ができていないことがわかる。今後も家庭学習の大切さを保護者に伝え協力を要請していく。

地域への働きかけについては、生徒のボランティアへの意識が高く、校内の清掃ボランティア、地域のお祭りや老人施設へのボランティア参加は非常に多い。地域の一人として認め励ますことで自己肯定感が高まり、学習に対する意欲も向上すると考える。地域への貢献のために生徒本人のために声掛けを続けていく。